

【目 次】

発刊の辞	廣井 脩（日本災害情報学会会長） 1
特集1 災害情報学に期待する	
求められる幅広い分野の叡智の結集	杉田 和博（内閣危機管理監） 2
人の絆と情報の価値	山本 繁太郎（内閣府政策統括官） 4
「災害情報学」への期待	石井 一（消防庁長官） 6
進化する情報防災	山本 孝二（気象庁長官） 8
火山災害と情報	荒牧 重雄（東京大学名誉教授） 10
地球温暖化が招く災害多発時代	伊藤 和明（防災情報機構会長） 12
分かりやすい災害情報を住民や開発担当者へ	首藤 伸夫（岩手県立大学総合政策部） 14
災害情報学への大いなる期待	高橋 裕（東京大学名誉教授） 16
地震災害軽減のための情報とその伝達	力武 常次（東京大学名誉教授） 18
特集2 災害情報とわたし	
東海地震の予知と観測情報	阿部 勝征（東京大学地震研究所） 20
伊東手石海丘噴火直後の対応	井野 盛夫（富士常葉大学） 21
被害を未然に防ぐ「防災情報」	岩田 孝仁（静岡県防災局） 22
相互不信を超えた妥協 ～「30分協定」への裏話～	小田 貞夫（十文字学園女子大学） 23
急ぎすぎた阪神・淡路大震災の復旧・復興事業	河田 恵昭（京都大学防災研究所） 24
特ダネ「東海地震」	川端 信正（静岡県総合研究機構防災情報研究所） 25
災害に備えて～東京ガスの取組み	坂口 央一（東京ガス） 26
若い研究者を育てよう	高橋 和雄（長崎大学） 27
情報通信分野における防災近況	田中 啓行（東日本電信電話） 28
災害情報は巾広い活用を	花村 信（東京電力） 29
大規模地震に対する危機管理能力の向上が課題	万代 典彦（東日本旅客鉄道） 30
防災気象情報改善の取り組み	三浦 郁夫（気象庁） 31
慚愧（ざんき）の念いまま、大震災に翻弄された朝	山中 茂樹（朝日新聞大阪本社） 32
原点 一何とか1人でも救えないかー	柳田 邦男（ノンフィクション作家） 33
阪神・淡路大震災が産んだ我が国のGIS	渡部 元（国土交通省） 34

特集3 フォーラム・シンポジウム (抄録)

防災フォーラム in ながさき 長崎大水害から20年 その教訓を活かして (第1日)
「長崎豪雨災害と都市防災の課題」 35

防災フォーラム in ながさき 長崎大水害から20年 その教訓を活かして (第2日)
「災害情報～その現在と将来～」 40

第4回日本災害情報学会研究発表大会 シンポジウム「東海地震と防災情報」 46
シンポジウム「南海地震にそなえる～新世紀の防災に向けて～」 53

投稿

[論文]

災害時に的確な危険回避行動を導くための情報コミュニケーション 61
田中健次 (電気通信大学)、伊藤誠 (筑波大学)

Communication and Information Inducing Suitable Danger-avoidance Actions from Disaster
Kenji TANAKA・Makoto ITOH 69

地元建設産業による災害情報ネットワークの実効性に関する検討 70

浅田純作 (松江工業高等専門学校)、大屋誠 (同)、高田龍一 (同)、
片田敏孝 (群馬大学)

An Examination on the Efficiency of the Disaster Information Network by the Local
General Constructors

Junsaku ASADA・Makoto OHYA・Ryuichi TAKADA・Toshitaka KATADA 77

「風評被害」の社会心理-「風評被害」の実態とそのメカニズム- 78

関谷直也 (東京大学大学院)

Social Psychology of “Image Contamination” –The Fact of “Image Contamination” and its Mechanism–
Naoya SEKIYA 89

[事例紹介]

行政機関のための災害情報収集・共有支援システム 90

渡部和雄 (静岡県立大学)、大石貴弘 (S B S 情報システム)、
渡辺伸一郎 (静岡市)、三本松広樹 (同)、松村正明 (同)、
橋本民雄 (沖電気工業)、大石新市 (同)

[国内動向]

国内の原子力防災訓練の実施状況と今後の展開 97

石井 和 (三菱総合研究所)

学会設立趣意書 101

事務局からのお知らせとお願い (学会事務局) 102

学会誌編集委員会関連規定及び投稿に関する規定 103

編集後記 (学会誌編集委員会) 106